

播性の高い小麦早生品種の出現の可能性

桐山毅・福岡寿夫・鶴 政夫・吉田美夫
(九州農業試験場)

KIRIYAMA, T., FUKUOKA, H., TSURU, M. and YOSHIDA, Y.
Does Early Variety with High Winter Habit
appear in Wheat?

1. 緒 言

平坦部に位する九州農試の小麦育種圃場において、1966年に、3月中・下旬の低温に基因する障害があらわれた。このような障害は、高冷地において著しい。その障害を回避し、また作付体系の合理化を図るためには、播性の高い小麦早生品種の出現が望まれるので、その可能性について調査された。

2. 材料および方法

供試材料は赤皮赤(播性Ⅳ)×農林61号(播性Ⅱ)のF₄の160系統である。それらは、F₂で無作意に160個体とられてF₃で160系統とされ、さらにF₃の各系統より各1個体が無作意に抽出されてF₄系統とされた。F₄の系統内個体数は10個体である。

播種区は12月13日播種(標準区)と2月13日、2月29日、3月14日、3月27日、4月13日、4月27日、5月16日にそれぞれ播種された7つの春播区との合計8区である。播性程度は7つの春播区の結果により8階級に分別された。すなわち、1は7つの春播区とも全部出穂した場合である。同様に2,3,4,5および6はそれぞれ4月27日、4月13日、3月27日、3月14日および2月29日までの春播区で出穂した場合である。7は2月13日播種区のみ出穂し、8は全春播区ともに出穂しなかつた場合である。

3. 結 果

標準区の出穂日と播性程度との関係が第1表に示されている。

第1表 標準区の出穂日と播性程度との関係

出穂日 (月日)	4.										5.										計						
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	15	16	17
播性程度																											
1																											
2		8																									
3																											
4																											
5																											
6																											
7																											
8																											
計		3	9	5	5	13	12	10	8	8	11	17	13	10	8	6	2	2	7	4	4	1	2			160	

(注) 1. 表中の数字は系統数 2. ♀=赤皮赤 ♂=農林61号

この表において、例えば、標準区で4月23日に出穂した系統は3系統あり、その中、2系統は播性程度1に、1系統は播性程度2にそれぞれ属しており、また、播性程度1に属している系統は15あることを示している。以下同様である。

第1表にみられるように、播性1および2に属している早生系統が多い。また、160系統の播性程度と出穂期との相関は+0.38で、有意ではあるがかなり低い値を示している。また、第2表にみられるように、播性と出穂日は互に独立していなくて、関連している。これらのことから、相対的に早生で播性の高い系統をうることは、困難であることを示している。しか

し不可能ではないと考えられる。ただし、このことは、農林61号よりも早生で、かつ播性の高い品種の出現の可能性に関する論議とはやや異なることを付記する。

第2表 2つの属性の独立性の検定

播性程度	出穂日	早		晩		合 計
		い	い	い	い	
低い	系統数	51	55	106		106
	期待値	43.06	62.94	—		—
高い	系統数	14	40	54		54
	期待値	21.94	32.06	—		—
合 計		65	95	160		160

$\chi^2=7.305$ P < 0.01